

平成 26 年度 事業報告書

学校法人 都築学園

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

1 学校法人の概要

(1) 建学の精神

学校法人都築学園は、「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神としています。

幼児教育、中等教育での個性は、人間性に基づくものとして育み、高等教育においては、「個性」を「専門性」としてとらえ、より高度化された学問的、実践的領域や分野を「個性」として位置付けています。

第一薬科大学、日本薬科大学、神戸医療福祉大学は、それぞれの領域の単科大学として、専門性に集中、特化する教育を基本としています。教養教育だけでなく、高度専門職、そして天職として自己の人生の社会的使命を自覚することを目指しています。さらには「個性」の持つ独自性のみが可能とする独創性、独創力に最も高い価値を置いています。

「個性の伸展による人生練磨」は学校教育のみに終わることなく、生涯を通して自己実現を達成していく建学の精神です。

(2) 学校法人の沿革

昭和 31 年 学校法人都築学園設置、福岡第一高等学校開校

35 年 第一薬科大学開学

41 年 みやこ幼稚園開園

52 年 せふり幼稚園開園

平成元年 第一自動車整備専門学校、東京マルチメディア専門学校開校

8 年 大阪デジタルテクノ専門学校開校

12 年 関東リハビリテーション専門学校開校

15 年 第一医療リハビリテーション専門学校開校

18 年 第一薬科大学薬学部薬学科 6 年制へ移行

19 年 第一経済大学付属高校を第一薬科大学付属高等学校に校名変更

21 年 学校法人都築インターナショナル学園（日本薬科大学）及び学校法人姫路学院（近畿医療福祉大学）と法人合併
第一医療リハビリテーション専門学校を福岡天神医療リハビリ専門学校に校名変更

22 年 近畿医療福祉大学 大阪キャンパス開設

東京介護福祉専門学校及び大阪デジタルテクノ専門学校廃止

23 年 日本薬科大学お茶の水キャンパス（医療ビジネス薬科学科）開設

25 年 近畿医療福祉大学を神戸医療福祉大学に校名変更

(3) 設置する学校・学部・学科等、入学定員・学生数の状況

(単位：人)

大学等	学 部	学科・課程等	入学定員	収容定員	在学者数
第一薬科大学	薬学部	薬学科	173	1,038	1,136
日本薬科大学	薬学部	薬学科	260	2,040	1,818
		医療ビジネス薬科学科 (お茶の水キャンパス)	90		
神戸医療福祉大学	社会福祉学部	社会福祉学科	250	1,800	785
		健康スポーツコミュニケーション学科	50		
		経営福祉ビジネス学科 (大阪キャンパス)	100		
福岡第一高校		全日制課程	760	2,280	1,030
第一薬科大学付属高校		全日制課程	210	630	578
		通信制課程	(500)	(1,500)	(611)
みやこ幼稚園				(140)	(140)
せふり幼稚園				(120)	(52)
第一自動車整備専門学校		自動車整備課程	150	300	61
東京マルチメディア専門学校		商業実務専門課程	90	595	343
		文化教養専門課程	85		
		工業専門課程	90		
関東リハビリテーション専門学校		医療専門課程	80	320	136
福岡天神医療リハビリ専門学校		医療専門課程	240	800	500
お茶の水はりきゅう専門学校		医療専門課程	56	168	66
合 計 (通信制課程、幼稚園を除く)			2,684	9,971	6,453

(4) 役員及び教職員

(単位：人)

役 員	理事	6
	評議員	17
	監事	2

大 学 等	教員数	事務職員数
第一薬科大学	52	33
日本薬科大学	88	52
神戸医療福祉大学	56	34
福岡第一高校	46	20
第一薬科大学付属高校	30	6
みやこ幼稚園	8	2
せふり幼稚園	6	1
第一自動車整備専門学校	9	3
東京マルチメディア専門学校	18	9
関東リハビリテーション専門学校	11	8
福岡天神医療リハビリ専門学校	31	12
お茶の水はりきゅう専門学校	6	8
法人本部	—	17
合 計	361	205

2 事業の概要

(1) 第一薬科大学

ア ガバナンス体制の整備

学校教育法等の改正に伴い、学則・規程等の見直しを行い、学長のリーダーシップのもとで、戦略的な大学運営を実施できるような体制を整備した。

イ 新入生の合宿研修

平成 26 年 4 月 25 日（金）から 4 月 27 日（日）の間、日本経済大学オックスフォード学生寮において合宿研修を実施した。この間、宝満山登山、スポーツ・ゲーム、バーベキュー等の実施を通じて、友達作り、同期生としての絆を深め、6 年間修学の志・基盤を醸成した。

ウ 教育・研究

① 新たな薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラムの策定作業を行い、平成 27 年度新入生から円滑に開始できる体制を整備した。

② クラス担任制と学力に応じたクラス編成による授業

1～4 年生に対し、年度初めに実施される基礎学力テスト（化学、生物、数学、物理、英語）の結果をクラス編成に反映させるとともに、1 年生の化学、生物、数学の低学力者は通常の 2 倍の授業時間の教育を行い、基礎学力の向上を図った。

また、学生 6～7 人に 1 人のクラス担任を指定して、学生生活全般を通じてきめ細かい親身な指導を実施している。

③ 中間試験の実施

1～3 年生に対し、着実な学力を身につけさせる方策として、前期・後期の

定期試験の間に中間試験を実施した。

- ④ 薬剤師生涯学習として、「基礎薬学と臨床の架橋による新しい薬剤師の誕生」「薬剤師シミュレーション研究会」等の講演会を4回実施し、卒業生等の能力向上を図った。

- ⑤ 平成26年12月6、7日、日本薬学会九州支部大会を担当大学として、本学において開催した。本学会開催中に卒後教育講座（リカレントセミナー）として、特別シンポジウム「臨床研究・治験における薬剤師の役割」を実施した。

- ⑥ 薬学共用試験及び病院・薬局実務実習

4年生135名が、薬学共用試験を受験し、OSCE合格率は100%、CBT合格率は86.7%であった。

5年生164名が、年間3期に分かれて、病院実習11週、薬局実習11週の実務実習を九州・山口地区の病院83施設、薬局152施設において行った。実務実習間、学生担当教員による実習先の訪問指導を各病院3回、各薬局3回実施した。

- ⑦ 薬剤師国家試験対策

認定試験（国家試験を想定した問題で卒業判定を行う）を4回、国家試験模擬試験を3回受験、薬学ゼミナールによる夏季国試対策勉強会（2週間）、冬季国試対策勉強会（2週間）及び直前国試対策勉強会（2週間）を実施した。

第100回薬剤師国家試験の新卒合格率は76.9%であった。

エ 学生支援

平成26年8月2日、講師3名による就職ガイダンスを行った。

オ 地域連携・社会貢献活動

- ① 福岡市南区の市民向け講座として、「認知症の予防とくすり」等の出前講座を南区の各地区において計12回実施するとともに、東ファーマシー株式会社の社員研修会において「薬局における学術研究のあり方」について、数回の出前教育を実施した。

また、本学において、公開講座「地域医療における薬剤師の役割」等を3回実施した。

- ② 福岡市の薬物乱用防止キャンペーンや秋の大歯科相談会2014等に参加するとともに、近隣小・中・高校等8機関に対し、薬剤師業務を地域保健医療への支援として行った。

また、福岡市南区医師会への東グランドの貸出（祝祭日）、福岡市南倫理委員会への薬ゼミ校舎の貸出（毎金曜日）等を行い、地域との連携を図った。

- ③ 高大連携として、6件の高校への出張講義を実施するとともに、高校20校において、校内ガイダンス（出張講義）を行った。

カ 国際学術交流

提携している米国デューク大学のカリッサー薬学部長が、平成26年11月2日～11月7日の間、本学を訪れ、4年生への講義、本学研究室視察、教職員に対する講演、福岡市薬剤師会での講演及び今後の交流についての協議を行った。

また、教員1名が、平成27年3月下旬、デューク大学を訪れ、長期派遣留学における教育・研究内容等の打合せを行った。

分析化学研究室の学生1名が教員とともに、平成27年3月下旬に米国サンフランシスコ市等で開催された学会に出席した。

キ 自己点検・評価活動

25年度版の自己点検・評価報告書を作成するとともに、高等教育評価機構による機関別認証評価（第2サイクル）に向けて、準備を推進中である。

ク 施設・設備整備

大学校舎の耐震診断を実施した。

(2) 日本薬科大学

ア ガバナンス体制の整備

学校教育法等の改正に伴い、学則・規程等の見直しを行い、学長のリーダーシップのもとで、戦略的な大学運営を実施できるような体制を整備した。

イ 教育・研究

◆薬学科（6年制）

① 新たな薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラムの策定作業を行い、平成27年度新入生から円滑に開始できる体制を整備した。

② 薬学共用試験及び病院・薬局実務実習

4年生189名が薬学共用試験を受験し、OSCE合格率は100%、CBT合格率は79.4%であった。

5年生184名が、実務実習（年間3期）を病院164施設、薬局176施設で行った。実習期間中に、担当教員による訪問指導を各病院3回、各薬局3回実施した。

③ 薬剤師国家試験対策及び就職

6年生に対して、薬学総合演習Ⅱ試験を4回、実力試験を計4回実施するとともに、夏季講習会並びに特別補修を実施した。

第100回薬剤師国家試験における新卒合格率は、69.4%であった。

卒業生の就職先は、病院（8名）、調剤薬局・ドラッグストア（33名）、製薬企業（3名）となっている（3月31日現在）。

◆医療ビジネス薬科学科（4年制）

平成26年度に完成年度を迎え、計59名の卒業第1期生を輩出した。

このうち、7名が「診療情報管理士」を、12名が「登録販売者」の資格を取得した。就職先は、病院（9名）、薬局（1名）、ドラッグストア（9名）となっている（3月31日現在）。

ウ 地域連携・社会貢献活動

① 学則条文に、本学が「地域を志向した大学」であることを明文化し、平成27年度から開始される新たな薬学科のカリキュラムに地域志向科目を配置した。

- ② 市民向け講座、高等学校を対象とした薬物乱用防止講演会や理科教員のための実践教養講座、町・区の文化祭等への参加、地域住民への大学開放等 130 件以上の事業を行い、地域との更なる連携を図った。
- ③ 伊奈町との共同により、「地（知）の拠点整備事業（COC）」を申請するとともに伊奈町・いきいき埼玉と相互連携に関する協定書を締結した。
- ④ 埼玉がんセンターとの覚書に基づき、平成 27 年 2 月から教員 4 名の研修を行った。

エ 質の高い入学者の確保に向けた学生募集

入学定員 350 名に対して 389 名の入学者（111.1%）を確保するとともに、平成 27 年度入試に向けてオープンキャンパス、学校訪問を中心とする各種活動を積極的に展開し、質の高い入学者の確保に努めた。

オ 国際学術交流

- ① 教員（1 名）の中国医薬大学（台湾）への留学を継続するとともに、学生 6 名が同大学やオックスフォード大学・ケンブリッジ大学への短期語学留学を行った。
- ② 中国医薬大学（台湾）から 2 名の教員が来学し、両大学の今後の共同研究について意見交換を行った。

カ 自己点検・評価活動

- ① 薬学教育評価への対応
評価報告書の指摘事項に対する改善状況を整理し、再評価に向けたスケジュールを確認した。
- ② 大学機関別評価への対応
平成 26 年度自己点検・評価報告書案（評価対象：平成 25 年度）を策定し、大学ホームページ上への公表に向けて準備を進めた。

キ 学修支援環境の整備

- ① お茶の水キャンパスの整備
研究室、教育準備室及びキャリア推進室を整備するとともに、2 号館の講義室（2 階）を拡充し、更なる教育環境の向上に努めた。
- ② 新学事システムへの移行準備
平成 27 年度からの新学事システムへの移行に備えて、導入準備を計画的に実施した。
- ③ 厚生施設の整備
学生間の交流をより一層深めることを目的として、カフェテリア「やっかふえ睡蓮」を整備した。また、女子学生のアメニティ向上のためにパウダールームを整備した。

(3) 神戸医療福祉大学

ア ガバナンス体制の整備

学校教育法等の改正に伴い、学則・規程等の見直しを行い、学長のリーダーシップのもとで、戦略的な大学運営を実施できるような体制を整備した。

イ 入学定員の変更届

社会福祉学科の環境デザインコースを廃止し、27年度から社会福祉学科の入学定員を250名から200名に削減、健康スポーツコミュニケーション学科の入学定員を50名から100名に増大する旨の届出を行った。

ウ 教育・研究

① ポリシーの見直し

各学科、コースごとに3つのポリシーの見直しを行い、ホームページで公開するとともに、在学生、新入生に対しては、4月のガイダンスで周知するようにした。

② シラバスを冊子で配布

ホームページで公開しているシラバスを、学生が携帯して活用ができるように冊子で配布することにした。

③ 学生指導の徹底

4月のガイダンスでの履修指導については、履修モデルを提示するとともに資格取得に向けての指導を実施した。また、クラス担任及びゼミ担当教員に学生の出席表を月ごとに配布し、出席できていない学生への面談を実施して退学者の減少等に努めた。

④ 国家試験対策

社会福祉士について4回の模擬試験を実施し、それぞれの解説講座を7～8回実施した。精神保健福祉士については、3回の模擬試験を実施した。

後期毎週3日は平日対策講座、年末27～31日はカウントダウン講座、試験前日は直前対策講座を開講した。

一方、大阪キャンパスにおいても資格取得できる最初の学生である3年生を対象とした対策講座を開講した。

社会福祉士国家試験は28.6%、精神保健福祉士国家試験は28.6%の合格率であった。

⑤ キャリア教育の見直し

1年生で開講していたキャリア演習Ⅰ、Ⅱを隔週開講とし、1年生キャリア演習Ⅰ、2年生キャリア演習Ⅱとした。これにより、2年、3年、4年とキャリア形成指導を継続して行い、学生の意識の向上を図った。

⑥ 教育懇談会の実施

6月、10月に保護者との教育懇談会を実施した。クラス担任又はゼミ担当教員と保護者の2者面談あるいは学生を交えた3者懇談を通して、保護者の不安に応えるとともに大学の教育方針等について理解と協力を求めた。

エ 学生支援

- ① 後援会の支援を得て、マイクロバスを新規購入した。これにより、課外活動時の遠征等のバス利用が可能となった。
- ② 就職ガイダンス、学内合同就職説明会、就職試験対策講座等を行い、就職指導の充実化を図った。
- ③ 資格取得に向けて、学内で介護職員初任者研修、福祉住環境コーディネータの講座を開講した。また、後援会の協賛を得て、一部の技能・検定合格者に対して受験料の補助を行った。

オ 地域連携・社会貢献活動

- ① 福崎町と共催で「第1回ふくさきマラソン」を4月に開催し、300人を超す参加者があった。
- ② 福崎町教育委員会が取組んでいる小学生児童を対象とした体操教室において、健康スポーツコミュニケーション学科の教員が指導に当たり、学生達も補助指導に当たっている。3年目に入り、参加児童が年を追うごとに増加している。また、神河町での住民参加型スポーツイベントであるチャレンジデーの運営にも同学科の教職員、学生が協力した。
- ③ 福崎町自治会からの要望を受け、地域社会が抱える福祉ニーズの掘り起しを聞き取りやアンケートによって行った。
- ④ 姫路キャンパス、三宮キャンパスにおいて、地域社会のニーズに応じた講座内容で公開講座を各4回ずつ実施した。

カ 入試広報活動

オープンキャンパス、進学ガイダンス、校内説明会、出張講座など積極的な広報活動を行った結果、27年度入学者は定員の85.8%となった。

(4) 福岡第一高等学校

ア 教育内容の充実

- ① 各々の学科に応じて専門科目に加え、特色を前面に打ち出した学校設定科目の充実を図った。
- ② 関連大学・専門学校と連携し、より専門性の高い授業を体験させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、高校～大学と一貫した教育の実施に努めた。

イ 進路指導の充実

- ① 進学希望者に対して、オープンキャンパスへの全員参加や見学、模擬授業、大学教員による出前授業等への積極的な参加を促し、早期の進路指導を強化した。また、関連大学等の支援により、学内で進路説明会を実施して、意欲向上を図った。
- ② 就職希望者に対しては、資格取得を推奨するとともに、求人票の見方、履歴書の書き方等を個別に指導し、生徒一人一人に合った対応を推進した。企業見学等により、工業系機械科は就職率100%を達成した。

ウ 学生募集

- ① 中学校の要望に対応して、授業・実習・学食体験の1日体験入学を実施するとともに、本校教員の中学校への出前授業や進路説明会を実施し、本校の特色ある教育の広報を行った。
- ② 中学校のPTA・保護者に対して、本校の特色ある教育を理解してもらうべく学校説明会を行った。
- ③ 塾に対して本校の進学説明会を実施した。

エ 施設・設備整備

本館、南館、北館校舎の耐震診断を実施し、その結果に基づく耐震補強工事設計を行った。

オ 部活動の成果

- ① 男子バスケットボール部
日本・韓国・中国ジュニア交流競技会優勝、FIBA ASIA U18 アジアバスケットボール選手権出場、九州新人大会優勝、国民体育大会優勝
- ② 剣道部（女子）
国民体育大会準優勝、玉竜旗全国高校剣道大会ベスト8、九州高等学校選抜剣道大会準優勝
- ③ ゴルフ部
全九州新人ゴルフ選手権男子団体優勝
- ④ 吹奏楽部
九州吹奏楽コンクール金賞、九州アンサンブルコンテスト金賞、福岡県高等学校音楽コンクール弦楽器部門金賞及びグランプリ
- ⑤ 野球部
福岡地区高等学校1年生野球大会優勝

(5) 第一薬科大学付属高等学校

ア 教育内容の充実

- ① 各々の学科に応じて専門科目に加え、特色を前面に打ち出した学校設定科目の充実を図った。
- ② 関連大学・短大・専門学校と連携し、より専門性の高い授業を体験させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、高校～大学と一貫した教育の実施に努めた。特に保育科における器楽では、福岡こども短大と同じ教科書を使用し、短大でのピアノ実習にスムーズに移行できるようにした。

イ 進路指導の充実

- ① 進学希望者に対して、オープンキャンパス、模擬授業、大学教員による出前授業等への積極的な参加を促し、早期の進路指導を強化した。
また、関連大学等の支援により、学内で進路説明会を実施して、意欲向上を図るとともに勉強会等も実施した。
- ② 就職希望者に対しては、資格取得を推奨するとともに、求人票の見方、履歴

書の書き方等を個別に指導し、生徒一人一人に合った対応を推進した。

ウ 通信制課程の充実

ホームページを開設し、他校からの転編入の受入を積極的に行うとともに渋谷キャンパスの開設に伴い、関東方面への転勤者に対して継続した教育を行った。

(6) 第一自動車整備専門学校

ア 教育

① 学科の再編成・改組

平成 27 年度より、1 級自動車整備士コースを設置するため、自動車ビジネスコースを廃止し、2 級自動車整備士コース（2 年制）と 1 級自動車整備士コース（4 年制）に改組すべく学則変更届等の手続を行い、承認された。

平成 27 年 4 月 1 日より、校名も自動車大学校に変更する。

② 自動車整備士国家試験の合格率は、88.9%であった。この中に留学生 3 名が国家試験に合格した。

イ キャリア支援

就職・キャリア形成プログラムのタイムリーな実施、就職先の新規開拓を積極的に行った。その結果、就職希望者は留学生を含み 100%の就職率を達成した。日本経済大学に編入学を含み 3 名進学した。

ウ 施設・設備整備

① 1 級自動車整備士コース教育に必要な 4 輪ホイールアライメントテスター、振動測定器、騒音測定器等の機器・備品を整備した。

② 実習場 1 階の床面の全面塗装工事及び完成検査場の蛍光灯を LED 化した。

③ WindowsXP サポート終了に伴い、教職員用パソコン及びプリンタ等を更新した。

エ 高大連携

福岡第一高校自動車科 3 年生の実習授業の一環として生徒を受け入れ、高校と本校の一貫教育を充実させた。

(7) 東京マルチメディア専門学校

ア 教育

非漢字圏の留学生増加に伴い、能力別クラス編成を行うとともに授業補助者を配置し、教育効果の向上を図り、多様なニーズに対応した。

イ 施設・設備整備

① 教育環境整備費助成を活用し、Adobe ソフトウェアクラウド化への対応及び学生数に応じたライセンスを取得した。

② 3 階フロアの P タイル張替工事及び 3 階教室の LED 化を実施した。

③ 屋上看板塔の鉄筋塗装を実施した。

④ 東京都私学財団の耐震化事業費助成事業を活用し、耐震診断に基づく耐震改修設計を実施した。27 年度に工事着手の予定である。

(8) 関東リハビリテーション専門学校

ア 教育

- ① 平成 27 年 4 月 1 日付で理学療法学科を 4 年制課程から 3 年制課程へ変更承認申請の届出を行い、平成 27 年 1 月 8 日に承認を得た。

平成 27 年度入学生から 3 年制課程の教育を開始する。

- ② 臨床実習の実施

理学療法学科 26 名の学生が北海道、東北及び中部・近畿の病院・保健施設の 39 施設で 20 週、作業療法学科 24 名の学生が 34 施設で 24 週の臨床実習を行った。実習期間中に、本校教員が各施設に出向いて学生指導を実施した。

- ③ 国家試験

卒業生の国家試験合格率は、理学療法士が 91.7%、作業療法士が 90.9% であった。

イ 施設・設備整備

- ① 織物・手工芸・絵画実習室、日常動作訓練室、金工・木工・陶芸実習室、装具加工室の蛍光灯を LED 化した。

- ② 1 階部分空調機及び 3 階北側の空調機のコンプレッサーの更新、老朽化した教具（治療台等）の更新を実施した。

(9) 福岡天神医療リハビリ専門学校

ア 教育

- ① 学科の再編・改組等

平成 27 年 3 月 31 日付で作業療法学科の昼間部 4 年制課程を廃止した。

- ② カリキュラムの改善

医療現場で遭遇することが予想される場面を想定して、理学療法学科のカリキュラムを一部変更し、教育内容の充実を図った。

- ③ 教育の質の向上

FD 委員会を立ち上げ、教員の教育能力の向上を図った。

- ④ 臨床実習の実施

理学療法学科 46 名の学生が九州及び中・四国の病院・保健施設の 96 施設で 20 週、作業療法学科 55 名の学生が同じく 92 施設で 20 週の臨床実習を行った。実習期間中に、本校教員が各施設に出向いて学生指導を実施した。

- ⑤ 国家試験

国家試験合格率の向上を目指し、理学・作業療法学科においては、約 4～5 日の合宿勉強会を行うとともに、各学科 10 回から 16 回の模擬試験を実施した。卒業生の国家試験合格率は、理学療法士が 86.0%、作業療法士が 94.1%、はり師が 100%、きゅう師が 100%、柔道整復師が 88.2% であった。

イ 学生支援

- ① 理学・作業療法学科の 3・4 年生全員に対し、部外講師を招聘し、就職セミナーを開催するとともに、九州管内及び山口県、愛媛県、京都府、千葉県的病

院・施設等 27 施設の参加を得て就職説明会を行った。

就職率は、89%であった。

- ② 厚生活動の一環として、10 月に「学校祭」を実施し、地域住民との連携強化を図った。

ウ 施設・設備整備

エレベーターのブレーキシム及び信号基盤の交換、コントロールボード及び各階表示灯等の部品交換、基礎医学実習室の空調機修理、理学療法学科教室の LED 化、高圧受電設備機器の改修工事を実施した。

(10) お茶の水はりきゅう専門学校

ア 教育

① 国家試験

授業外国家試験対策講座の実施、定期試験問題を e ラーニングに反映する等、各種国家試験に対するきめ細かい対策を講じた。卒業生の合格率は、はり師が 93.3%、きゅう師が 100%であった。

② 教育内容の充実

専任講師による休日開催の公開講座や外部講師による休日開講のスキルアップ講座を複数回実施した。

- ③ 「スポーツトレーナー養成コース」「アロマセラピスト養成コース」の 2 コースを併設した。また、27 年度から新たに「フェイシャルエステティシャン養成コース」を開設すべく準備を完了した。

(11) 幼稚園

ア みやこ幼稚園、せふり幼稚園とも安全面を重視して各種行事を実施し、元気で礼儀正しい子供を育成する教育を行うとともに、年間を通じて時間外預かり保育を行った。

イ せふり幼稚園

- ① 平成 25 年度から取入れている「ヨコミネ式教育法」を充実させ、長所を伸ばす教育を推進した。
- ② 平成 27 年度から福岡市の小規模保育事業を行うため、トイレ、保育室、厨房等幼稚園舎の改修工事を実施した。

(12) 法人

ア 軽井沢に教育研究用の研修施設を都築第一学園と共同で購入・整備した。

イ 横浜薬科大学に賃貸している横浜薬科大学校地（本学園所有）を都築第一学園（横浜薬科大学）に売却した。

3 財務の概要

(1) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	8,331,957	8,349,306	△ 17,349
手数料収入	128,757	129,860	△ 1,103
寄付金収入	12,269	12,662	△ 393
補助金収入	687,986	688,835	△ 849
資産運用収入	215,360	216,071	△ 711
資産売却収入	2,509,600	2,510,060	△ 460
事業収入	318,343	319,411	△ 1,068
雑収入	159,094	159,617	△ 523
借入金等収入	700	771	△ 71
前受金収入	1,333,754	1,335,770	△ 2,016
その他の収入	535,426	537,376	△ 1,950
資金収入調整勘定	△ 2,907,973	△ 2,908,203	230
前年度繰越支払資金	2,654,887	2,654,887	0
収入の部合計	13,980,160	14,006,422	△ 26,262
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,306,883	4,306,792	91
教育研究経費支出	2,524,623	2,522,387	2,236
管理経費支出	1,123,279	1,121,926	1,353
借入金等利息支出	456,303	456,290	13
借入金等返済支出	1,256,533	1,256,532	1
施設関係支出	365,310	365,169	141
設備関係支出	126,763	126,487	276
資産運用支出	650	650	0
その他の支出	358,342	358,283	59
予備費	100,000		100,000
資金支出調整勘定	△ 458,153	△ 458,201	48
次年度繰越支払資金	3,819,628	3,950,108	△ 130,480
支出の部合計	13,980,160	14,006,423	△ 26,263

(2) 消費収支計算書

(単位：千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	8,331,957	8,349,306	△ 17,349
手数料	128,757	129,860	△ 1,103
寄付金	22,448	23,022	△ 574
補助金	687,986	688,835	△ 849
資産運用収入	85,620	86,261	△ 641
資産売却差額	150	150	0
事業収入	318,343	319,411	△ 1,068
雑収入	164,246	165,036	△ 790
帰属収入合計	9,739,506	9,761,881	△ 22,375
基本金組入額合計	△ 825,361	△ 825,365	4
消費収入の部合計	8,914,146	8,936,516	△ 22,370
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	4,320,231	4,320,036	195
教育研究経費	3,599,497	3,597,021	2,476
管理経費	1,479,135	1,475,261	3,874
借入金等利息	456,303	456,290	13
資産処分差額	822,492	920,870	△ 98,378
徴収不能額	22,595	22,479	116
徴収不能引当金組入額	28,525	635,094	△ 606,569
(予備費)	100,000		100,000
消費支出の部合計	10,828,777	11,427,051	△ 598,274
当年度消費支出超過額	1,914,632	2,490,536	

※平成 26 年度は大きな支出超過となり、帰属収支差額も△1,665,163 千円と大幅なマイナスとなるが、これは本学園所有の横浜薬科大学校地を都築第一学園に売却したことによる簿価と売却金額の差額 761,633 千円を資産売却差額に計上したこと及び都築俊英学園からの返済計画見直しに伴う長期貸付金に対して 606,625 千円を徴収不能引当金組入額として予防的に引当てをしたこと、又、日本薬科大学が構築物除却 144,967 千円を計上したことによるものであり、実質的な帰属収支差額は 151,937 千円のマイナスである。

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	87,162,248	91,203,863	△ 4,041,615
流動資産	4,473,054	2,905,302	1,567,752
資産の部合計	91,635,302	94,109,165	△ 2,473,863
固定負債	16,042,134	17,051,796	△ 1,009,662
流動負債	3,286,944	3,085,973	200,971
負債の部合計	19,329,078	20,137,769	△ 808,691
基本金の部合計	93,573,163	92,907,591	665,572
消費収支差額の部合計	△ 21,266,939	△ 18,936,196	△ 2,330,743
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	91,635,302	94,109,164	△ 2,473,862

※当学園所有の横浜薬科大学校地を第一学園に売却した事により固定資産が減少した。